

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、家族と何かという基本的な問いに始まり、家族の発達と個人の発達、家族を取り巻く諸問題について取り扱う。また、家族の理解を深める際に重要となる家族療法の基礎理論や、家族療法の鍵概念についても講義する。さらに、講師の児童期・思春期の子どもを対象とした集団精神療法の実践経験や、教育現場での実務経験を踏まえ、現代社会における様々な家族の形態や家族を取り巻く課題について、架空事例を用いながら解説する。

授業計画

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス 家族とは何か |
| 第 2 回 | 家族心理学とは何か |
| 第 3 回 | 家族の発達と個人の発達：概論 |
| 第 4 回 | 青年期以前までの発達と家族形成の関連：アイデンティティの発達と家族 |
| 第 5 回 | 独身の若い成人期の発達と家族形成の関連：親密性の発達と家族 |
| 第 6 回 | 夫婦の成立と夫婦の発達 |
| 第 7 回 | 乳児期・幼児期の子どもと家族 |
| 第 8 回 | 児童期の子どもと家族 |
| 第 9 回 | 思春期・青年期の子どもと家族 |
| 第 10 回 | 家族を取り巻く問題の実際 ①不登校 |
| 第 11 回 | 家族を取り巻く問題の実際 ②児童虐待、DV |
| 第 12 回 | 家族を取り巻く問題の実際 ③貧困、非行など行動上の問題 |
| 第 13 回 | 家族療法の理論 ①システム理論について |
| 第 14 回 | 家族療法の鍵概念 ②IP、円環的因果律、家族の境界など |
| 第 15 回 | 家族療法の実際 |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

- 1、家族とは何か、現代社会における家族のあり方の多様化を含め説明できる。
- 2、家族の発達と個人の発達の関連について説明できる。
- 3、家族を取り巻く問題の実際について、架空事例を通して体験的に理解できる。
- 4、対人援助職として家族を支援する際の基礎知識を習得し、心構えを身につける。

履修上の注意

- 1、20分以上の遅刻は欠席扱い、遅刻3回で1回の欠席とする。リアクションシートの未提出は欠席とする。
- 2、全ての授業でリアクションシートの提出を求め、翌週の授業開始時に講師がフィードバックする。
- 3、許可の無い限り、機器の如何にかかわらず授業内容の撮影・録音を禁ずる。
- 4、グループワークを用いる予定であるため、遅刻・欠席しないようにすること。

予習・復習

授業計画を参照し、各自予習復習を行うこと。自身の学びを振り返るためのノートの作成があることが望ましい。

評価方法

成績評価の基準：リアクションシート（40%）、定期試験（60%）で評価する。定期試験は、穴埋め式・論述式で行う予定である。詳細は授業内で提示する。

テキスト

各授業のパワーポイント資料。その他のテキストについては、授業内で指示する。